

平成28年度畜産研究所の基本方針

I 基本方針

当研究所は、「岐阜県科学技術振興方針」（平成24年3月策定）との整合性をとりながら、「ぎふ農業・農村基本計画」（平成28年3月策定）にある各種施策の実現を研究開発の面からサポートするため、「岐阜県農畜水産研究推進基本方針」（平成26年6月策定）に基づく研究開発に積極的に取り組みます。

特に、県民に対する安全・安心・健康な畜産物の提供と県内畜産ブランド製品の振興を最重点課題として位置づけ、関係機関と緊密な連携をとり、①生産性向上のための家畜の育種改良の推進 ②畜産新技術の開発 ③畜産環境改善を中心とした研究開発に取組み、その成果を踏まえた技術支援により県内畜産業の振興を図ります。

II 具体的な施策

1 研究体制

(1) 共同研究の推進

関係する国立研究開発法人研究機関や、県内外の大学及び県内研究機関等と連携し、共同研究等を積極的に推進することにより、質の高い研究実施体制の構築に努めます。

(2) 公募型研究への積極的な取組

これまでの公募型研究の取組実績を踏まえ、今年度も研究開発の迅速な推進を図るため、産学官連携の強化等により公募型研究に積極的に応募します。

2 重点化した研究開発の推進

(1) 家畜の育種改良の推進

1) 飛騨牛の育種改良

優良種雄牛の育種改良を推進し、「飛騨牛」の全国ブランドとしての基盤の維持発展に努めます。特に次世代種雄牛として、高能力種雄牛である「白清85の3」の後継種雄牛の造成に取り組むとともに、おいしい牛肉の開発および「飛騨牛」の特徴をPRできる指標探索を推進し、育種改良への活用を目指します。

また、現在活躍中の種雄牛「花清国」、「花清勝」、「福平国」等の有効利用とともに、新たに造成された種雄牛の改良増殖面での活用を推進します。

2) 乳牛の改良

乳用牛群検定および牛群審査による雌牛の能力把握と遺伝的能力評価の高い種雄牛精液を利活用して、産乳能力が高く体型に優れた牛群改良を進め、その牛群から採取した雌雄判別胚を県内酪農家に供給し、県内乳用牛の能力レベルアップと改良スピードアップを積極的に支援します。

また、高泌乳牛の健全なルーメン発酵を促す飼養管理技術を確立することにより、改良効果や繁殖性能力が十分発揮できるように飼養管理面から支援します。

3) 高能力種豚集団への育種改良とその維持、増殖

特徴あるおいしい豚肉を安定生産するために必要なデュロック種系統豚「アイリスナガラ」、筋肉内脂肪交雑量を高くする遺伝領域を保有するデュロック種「ポーノブラウン」、発育の良い大ヨークシャー種「ナガラヨーク」の3種豚群について、更なる高品質化をめざした育種改良を推進するとともに、その維持増殖に取り組み、県内養豚農家に種畜及び人工授精用精液を供給します。

4) 鶏の育種改良

「奥美濃古地鶏」原種鶏の育種改良を進め、肉用奥美濃古地鶏は肉質向上による高品質化を、また卵用奥美濃古地鶏では卵質向上による高付加価値化を目指すとともに、種鶏やコマーシャル鶏供給により生産基盤の安定・強化を支援します。

また、消費者ニーズが高い有色卵生産に応えるため、(独)家畜改良センター岡崎牧場や県内育種会社と連携・分担した国産赤玉高品質鶏の開発を進め、県内民間孵化場と連携し普及を目指します。

(2) 畜産新技術の開発

1) DNA解析や受精卵移植技術を活用した新たな育種技術の開発

種畜選抜及び飛騨牛や銘柄豚、奥美濃古地鶏の生産性・経済形質について、DNA解析手法を利用した新しい育種手法の開発を目指します。

また、受精卵移植技術の利活用については、雌雄判別精液を活用した雌胚の効率的な生産技術を確立することにより、高能力乳用牛の雌受精卵数を確保し、県下の乳用牛の効率的な改良を支援するとともに、受精卵段階での和牛遺伝子診断技術を確立します。

2) 飼料用米を活用した高品質・高付加価値技術に関する試験研究の推進

飛騨牛では肥育牛に対する飼料用米給与技術の確立を目的に現場実証試験を開始し、肥育牛への飼料用米給与の普及を目指します。

乳牛では稲発酵粗飼料の消化性や栄養価等の飼料特性を解明するとともに、低コスト化を目指した給与法の開発に取り組みます。

豚では、飼料用米を給与した高品質豚肉の生産技術について取り組み、農家段階での実証試験を行います。併せて、飼料用米を給与した豚肉の嗜好評価指標を策定するとともに、その評価指標に基づいた効率的な育種手法及び豚の遺伝的能力を十分に発揮するための飼養管理技術の確立を行います。

鶏では、卵用鶏および卵用奥美濃古地鶏における飼料用米給与方法及び品種が産卵・卵質に及ぼす影響を検証し、差別化技術を確立します。

3) 血中因子を指標とした効率的な肉用牛肥育方法の開発

近畿大学等を中心とした共同試験により、肥育中に血中のタンパク質（肥育マーカー）を測定し、屠畜時の枝肉成績を予測するシステムを開発します。

(3) 資源循環型社会への対応

堆肥の流通促進と畜産施設の脱臭対策として、アンモニアリサイクラーを用いた高付加価値液肥製造技術の開発を行うことにより本装置の普及を推進し、環境問題に対応しながら地域内における資源循環を可能とするシステムの構築に取り組みます。

3 産業界発展に寄与する技術支援

(1) 飛騨牛部門では、さらなる銘柄化推進のため、肉用牛経営農家に対し和牛の交配・飼養管理・繁殖管理指導等の技術支援を行います。

また、平成29年に宮城県で開催される第11回全国和牛能力共進会を飛騨牛ブランド推進のための絶好の機会とするため、関係機関と協働し出品対策を支援します。

(2) 酪農部門では、優良乳用牛雌胚（受精卵）の供給や性判別技術を提供するとともに、飼料分析を活用した高度な栄養管理や適正な飼養管理等、生産技術の向上を支援します。

(3) 養豚部門では、「飛騨けんどん・美濃けんどん」や「ポーノポーク」等のブランド化の支援、能力向上に結びつく豚人工授精事業の推進やデュロック種の生産現場での利用等に関する技術指導を行います。

(4) 養鶏部門では、奥美濃古地鶏のブランド化支援のための種卵供給や、採卵及びブロイラー経営農家の生産性向上に結びつく質の高い飼養管理技術の指導を行います。更に、養鶏関係団体・企業からの技術相談にも積極的に応じます。

(5) 畜産環境対策部門では、臭気対策を中心とした農家からの相談に、経営にも配慮した技術指導を行います。

(6) 飼料部門では、飼料の品質向上を支援するため飼料分析を実施するとともに、自給飼料の増産や有効利用を図るため、飼料作物品種比較試験や除草剤適応性試験に基づいた飼料作物生産技術の指導を行います。

4 研究成果の発信

(1) 研究成果の発信

研究成果は、学会や研究会へ積極的に発表するとともに、産業界や県民等に開かれた発表会を通して情報発信します。また、マスメディアの更なる活用と、「畜産研通信」及び研究所ホームページにより、リアルタイムで質の高い情報発信に努めます。

更に行政、普及、生産者、関係機関と連携を密にし、研究成果を生産現場に迅速に技術移転していきます。

(2) 優良種畜・精液及び受精卵の供給

種畜の育種改良を推進し、研究成果として優良種畜・精液及び受精卵を農家へ配布します。